

広島県

民児協だより



ヒゴタイ(ぼにばな)

(写真提供)一般社団法人庄原観光推進機構

column コラム

ヒゴタイー地域の子どもたちと育んだ比和町三河内^{みつがいち}

庄原市には、農林水産省の「つなぐ棚田遺産～ふるさとの誇りを未来へ～」に認定された「比和三河内の棚田」があります。

三河内の棚田には、「ぼにばなの咲く郷・三河内」のキャッチフレーズがあります。「ぼにばな」とは、お盆の時季、先祖のお墓へ手向ける草花を総称して「ぼにばな」と呼んでおり、比和町にはヒゴタイが自生していたので、ヒゴタイを加えて「ぼにばな」としていました。ヒゴタイは、絶滅危惧種とされており、庄原市では比和町の他にも東城町や高野町にも自生していますが、その中で、保護活動が実って、毎年多くの花をみせてくれるのが比和町三河内です。

ヒゴタイの保護活動は、廃校となった三河内小学校の郷土学習から始まります。

地域の高齢者から子どもたちは、ヒゴタイをはじめとする郷土の聴き取りを行い、三河内の宝を、子ども、先生と一緒に、守っていく活動を始めます。学校から始まった郷土学習の取り組みは地域を巻き込み、地域力を醸成し、地域の支え合いを強めていったのです。また、子どもたちはヒゴタイ学習を通じて、草花を大切に作る心などを学んでいきます。このことは、人を大切にする心や、高齢者や先人の思いを大切に、未来へつなぐことに通ずるものと考えます。

豊かな自然がある庄原市だからこそできる地域包括ケアシステムや、地域共生社会につながる取り組みが、今も脈々と続いています。

庄原市民生委員児童委員協議会 会長 田村 富夫